

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791400068		
法人名	特定非営利活動法人あそびりクラブ		
事業所名	あそびりクラブ 西小路の家		
所在地	大阪府箕面市西小路3-11-6		
自己評価作成日	令和元年9月29日	評価結果市町村受理日	平成32年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&liyosyoCd=2791400068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い介護がしたいという思いのボランティア活動から発展したNPO法人が運営している、ワンユニットのグループホームである。宿泊旅行や日帰り旅行などの行事や、天気や体調に合わせて、イレギュラーな外出なども行っている。手作りの食事は、時には家族からも依頼があり、大変喜ばれている。地域での祭りへの出店なども行い、地域との交流も盛んである。箕面市のグループホーム連絡会にも参加し、横のつながりの強化も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

27年前に、女性3人のヘルパー仲間が、認知症の人とその家族を支えたいという思いで始めた、小規模のデイサービスセンター「びわの会あそびりクラブ」が起源のNPO法人が、11年前に当事業所を開設した。昨年12月に発行された「10年間の思い出」を見ると、入居していた利用者の家族の感謝の言葉は勿論だが、10年間の利用者の笑顔の写真が満載である。箕面の有名寺院の参拝、フラワーセンターでのチューリップ観賞、淡路島の植物館、万博公園の花見、インスタントラーメン発明記念館など様々なところに出かけた時の楽しそうな笑顔の写真がある。そしてクッキー作り、うめぼし作り、柏餅作り、筍の皮むき、ささがきごぼう作りなどに取り組む姿の写真もある。この事業所は、利用者にとって、入居する前と同じような生活ができ、楽しみ事が多い施設であり、創業者の精神が脈々と受け継がれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一回スタッフ研修にて取り上げ、周知し、共有に努めている。	小規模なデイサービスセンター創立からの精神を受け継いだ「1.笑顔のあふれる楽しい暮らし 2.心地よい安心した暮らし 3.地域の中で自分らしい暮らし」の実現を運営理念と定め、職員全員が開設時より実践に取り組んでいる。理念を入り口、リビング、事務所に掲げ、職員は日々確認して自己の行動に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、こどもフェスティバルへの出店など、交流に努めている。	創立以来、地域に支えられ、地域と共に高齢者の暮らしの質を高めることに尽力して来て、ようやく開設した法人・事業所なので、地域とのつながりは強い。地域のボランティア団体とは、日常的に訪問したり、バザーに参加して交流を深めている。この春には、地区の子どもフェスティバルに綿菓子のお店を出店して喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや、中学生の職場体験、市の教職員の二年目研修などの受け入れや、認知症サポーター養成講座の開催などで貢献に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月、運営推進を行い地域の事業所、市職員、民生委員、家族会から参加頂き、様々な意見交流ができています。	会議は、地域のボランティア団体代表や市社協職員、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族会代表、時に知見者として他のグループホームの管理者など多彩なメンバーが参加して、偶数月に開催されている。会議では、事業所から出来事や予定を報告し、地域から認知症研修や行事予定などの案内を受けたり、認知症介護の問題について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月の運営推進会議に参加して頂いたり、市の市の行事などへの積極的な参加などもあり、協力関係を築くことに努めている。	事業所開設時以来、市役所とは指導やアドバイスを受けるなど密接な関係を保っている。市担当職員が運営推進会議へ参加したり、事業所で市職員による研修を実施したり、認知症講習会(キャラバンメイト指導者研修)を事業所で開催したりするなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ研修にて取り上げ、どのようなことが虐待にあたるのかなど理解でき、身体拘束をしないでいい介護の実践ができるよう努めている。防犯上夜間の施錠はしているが、日中は施錠はしていない。	毎月第3月曜日の午後にスタッフ会議を開催し、その中で様々な研修を実施している。身体拘束についての研修を行い、特に転倒防止のための感知センサーや車椅子のベルトの使用の是非について話し合っている。利用者は、昼間は玄関を自由に出入りできるが、夜間は防犯のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修にて周知し、声かけ合える関係性を築くことや、外部からのボランティア受け入れなどで、施設を閉鎖的にしない工夫をし、虐待などが見過ごされないような環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回、スタッフ研修にて取り上げ学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書にて、契約時に十分な説明を行い、ご本人、ご家族の納得の上での契約に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置し、年二回の家族会の開催、および運営推進会議への三かも求めている。玄関に意見箱も設置している。年に一回の総会でも組織全体の運営についても知らせ、意見交換も取り組んでいる。	家族会を年2回(春・秋)開催している。春の家族会では、認知症やターミナルケアなどの勉強会を開催し、秋には、利用者と家族と共にすき焼きなどの食事会を開催し、家族とのコミュニケーションを図っている。6月の法人の総会には家族に参加を呼びかけ、法人全体の運営状況や今後の方針を報告し、家族との意見交換もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員は、法人の正会員となり議決権を持っており、総会への参加などにより、法人全体の運営について知る機会もあり、各部署にて月一回のスタッフ会議も設けている。	管理者は、毎月第3月曜日午後のスタッフ会議で、職員と約2時間半、利用者のケース会議や勉強会などを行い、ケアの問題や運営について話し合っている。また職員は法人の正会員なので、年1回6月に開催される法人総会に参加して、事業所運営などについて報告を受け、意見や提案を述べる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員への面談、契約更新時にも聞き取りなどを行い、随時個人の状況が変われば、出来る限りの対応も図っている。今年については職員の妊娠への対応も管理者を筆頭にチーム全体でのフォローもできている。働く環境としての最善を務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修にも積極的に参加を勧め、研修費の一部負担も行っている。外部研修を受けた職員による研修報告も施設内実習として行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三カ月に一度のグループホーム連絡会に参加し地域の事業所と情報交換や意見交換などに取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人と面談をもうけ、聞き取りをした内容を施設に持ち帰り、全職員への情報提供など会議で取り上げ、入所してから本人が安全に過ごせる環境の土台を作るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に家族とも面談をし、家族としての想いなども鑑みながら本人にとって一番安心できるよう入所準備を進めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームが、本人にとって一番良い選択どうかも含めて入所についての検討を管理者、ケアマネ、全職員で検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日同じ食事を摂り、家事なども職員、利用者、一丸となって取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、連絡を取り、常に情報の共有に努めている。 介護において何か困りごとなどが生じた際には、逐一相談をして、どうするのが最善なのか一緒に考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の了承のもと、古い友人の訪問や電話なども受けている。家族と共に、なじみの場所に出掛けることもある。	入居が長い利用者には、知人の訪問はほとんどなくなっている。利用者の中には、家族と一緒に馴染みのレストランでの食事に出かけたり、墓参りに出かける人もいる。また、利用者2人が家族と一緒に、京都の寺院の境内で開催される馴染みの古道具市に出かける時に、職員も同行して支援をしたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状の進行などで関係性に変化も出てきているが、随時、席替えや、作業の割り振りなど対応している。わからない者同士で、力を合わせてひとつのことに取り組む姿も自然に見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方はほとんどおらず、死去のためサービス終了となった方の、家族がボランティアに参加するなど、良好な関係が継続していることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の担当職員を割り振り、ケアマネとも連携して、随時本人、家族への聞き取りを行い、本人の意向に沿った暮らしが出来るよう努めている。	事業所では、「パーソンセンタードケア」の考えを取り入れている。各担当職員が、利用者個々の気持ちをもっと知るため、利用者の思いを細心の注意を払って丁寧に聞き取り、専用シートに記入して、計画作成担当者や他の職員間で情報共有し、本人の気持ちに沿った暮らしの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや、家族への聞き取り、本人が何気なく発した言葉など、職員間で共有できる様、聞き取ったことを記載する用紙を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでは、利用者全員の情報を逐一報告しており、申し送り表を作成し、さかのぼって情報が得られるようにしている。訪問診療や訪問看護への申し送りのノートなどを使い職員全員が情報を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年ごとに、計画の見直しをケアマネ、利用者担当職員を中心に実施している。状態が変化した際などは、本人、家族と相談しながら常に今必要なケアができるように努めている。	計画作成担当者は、利用者個別の介護記録、申し送り表、毎月のケース会議を参考に、毎月1回モニタリングを実施している。家族やかかりつけ医の意見を参考に、担当職員を交えて6か月毎にカンファレンスを行い、短期6か月長期1年の介護計画を立てている。利用者の状態に変化のある時は、医師や家族も交えてカンファレンスを開き、その都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録、介護実施表、申し送り表への記録やスタッフ会議にて、情報の共有を図り、日々の実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内のデイサービスと連携をとり、日中デイで過ごすケースなどもあり、本人や家族の希望に沿って個別に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への積極的な参加や、地域の方にボランティアで来てもらうこともある。外部の訪問マッサージなど必要な方には、受けられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回かかりつけ医の訪問診療を受けている。個別になじみのかかりつけ医がいる場合は、継続して利用できる様、支援している。	利用者は、協力内科医の訪問診療を月2回受けている。従来のかかりつけ医の訪問診療を受けている人もいる。他の専門科の受診は家族の同行が基本だが、職員が同行するケースもある。協力病院の受診は職員が支援し、家族も同行している。歯科は、協力歯科医の訪問診療を3か月に1回受けており、毎月治療を受けている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護の際は、一週間の様子など細かく報告できる様、記入する用紙がある。また、急変時や必要に応じて、看護を受けられるよう、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、サマリーの提出により情報を共有し、退院の時期などについては、病院、本人、家族の意向も相談しながら検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応について、早い段階で書面での意思確認を行い、終末期になると家族の意思を再度確認し、意向に添った終末期ケアが出来るよう努めている。	入所契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態が変化した時には、家族の意向を再度確認し、医師と家族を交えて話し合いをして介護方針を決めている。看取りマニュアルを整備し、終末期ケアの内部研修や外部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、救急搬送を希望するのかなど、個別に書面で意思確認を行い、実際に急変時に立ち合った職員全員が対応できる様、明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練の実施。近隣住人への協力の要請も行っている。災害時の備蓄食品や水などの準備も行っている。	消防署の立会いの消防避難訓練以外に、毎月避難訓練を実施するように努めている。訓練では、近隣住民の協力を得て、向かいの駐車場に避難している。1月17日に実施される市の防災訓練にも参加している。防災マニュアルを整備し、備蓄品として水、缶詰、レトルトカレー、パン、羊羹、おむつなどの介護用品など、1週間分を保管している。	非常口への通路に物干しが設置してあり、災害時の避難に妨げとなって危険と思われる。避難通路となる玄関や非常出口周辺の整理整頓を常に心がけることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴で、スタッフ一人で全行程の対応をしている。尊厳を守る言葉かけなどもスタッフ研修にて、定期的に学び実践に努めている。	毎月のスタッフ会議の中で、毎回様々なテーマを取り上げて研修を行っている。その中で接遇や人権について取り上げ、議論を深めて実践につなげている。トイレへの誘導時には特に配慮して声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の介助の中での、会話であったり、反応であったりを、細かく申し送りなどで共有し、利用者の思いや希望を全員がくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人の利用者全員が同じペースで生活できるはずはなく、個々のペースに合わせ、1日を過ごせるよう、スタッフの対応の仕方なども、会議にて話し合い、全員で対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容師に来てもらい散髪をしている。季節ごとに家族に衣替えをお願いし、なじみのある洋服など、それぞれの好みにあった服装ができています。ボランティアに、自分の選んだ色のマニキュアを塗ってもらうこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同じ食事を摂り、ワイワイとにぎやかに食事を楽しんでいる。下準備や食器の片付けなども利用者とスタッフ一緒にやっている。	昼食と夕食は、調理専門職員が事前に決めた献立表に沿って、その都度調達して来た新鮮な食材を使って調理している。利用者の中には、下ごしらえや下膳など、できることを行っている人もいます。職員も同じものを一緒に摂っており、家庭的な雰囲気のある食事風景である。時にはカレーやおやつホットケーキ、たこ焼きなどを利用者と一緒に作ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、調理専門スタッフの手作り料理が出ている。体調を崩した利用者に対し、その人の好みのもを提供したりもしている。食事量や水分量は個別にチェックして、水分などが足りているかどうか誰もが把握できるようにし、即座に対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。本人の状態に応じて、使用する道具や、介助内容を検討し、実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の24時間の排泄表の記入、排便確認などを行い、パターンをつかむよう努めている。定時や随時のトイレ誘導によりパットへの排泄を減らすよう努めている。使用するおむつ類も一律のものではなく、本人の状態に合わせて細かく、個々で使用するものを検討している。	排泄が自立の利用者、布パンツとパッド、リハビリパンツ、紙パンツ使用の人など様々だが、日中は全員がトイレの便座を使用するよう援助している。その人の排泄習慣を記録し、皆で共有して声かけしている。排便コントロールも薬に頼らず、食べ物・飲み物で工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量水分量のチェック、毎朝のヨーグルトなどは全員に対して取り組んでおり、個別には、ヤクルト、オリゴ糖などの使用も行っている。提携医とも随時相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回入浴している、二人介助の方でも3日に1回は入浴している。入りたくない時は時間をおいて声かけするなど、入りたいタイミングで入れるよう努めている。	入浴日は2日毎にあり、2人介助の利用者は体調を観ながら3日毎に入浴して、清潔を保持している。入浴剤は使用せず、季節のゆず湯や菖蒲湯を行い、バラの花びらを湯船浮かべて香りを楽しむ時もある。家庭的な風呂で窓から箱庭の緑を眺められ、通風換気ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を活発にして夜ぐっすり休めるよう努めている。寝る前のホットミルクなど、気持ちよく眠れる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬一覧を作成し、更新も随時行っている。服薬の支援については、間違いがないよう、内容に変更あった際などは、申し送りや会議にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態や好みに合わせた家事や、取り組みを行っている。家事の時間や食事時間などは音楽好きの方のため、様々なBGMをかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のお買い物に、日替わりで数名ずつ出かけている。近所でのイベントなどにも積極的に参加している。	利用者は日常的に、近隣のスーパーやコンビニに買い物に出かけている。屋上から山並みを眺め、外気浴をしている。近隣のイベントにも参加している。利用者は重度化してきているが、家族の付き添い協力を得て、車でデイキャンプに参加した。気候の良い季節には、バラ園や紅葉狩りのドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に必要なものは随時、お小遣いから買ってもらう。 お金を支払うということへの支援については、毎日の買い物で利用者にレジでの支払いをしてもらうなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や贈り物が届いた際は、返事を書きましようとの声かけを行っている。家族や友人からの電話については取り次ぎ、ゆっくりと話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節ごとに花を飾ったり、危険なものの排除や、清掃など環境整備にも取り組んでいる。	食堂にはテレビが2台あり、明るくて外の四季の眺めも良く、季節の草花を小瓶に生けて置いている。和室のリビングルームには、テーブルと椅子、ソファがあり、足腰の不自由な高齢者の使い勝手を考えて配置している。トイレも多く、浴室から箱庭の緑を見ることができる。食事中はテレビを消し、静かなクラシック曲が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置などに配慮し、気の合う方と過ごせる工夫をする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのある家具などを持参してもらい、生活動線などに配慮し、配置にも工夫をしている。	居室は広く、エアコン、ベッド、洗面台、押入が設置され、ハンガーラックも使用できる。利用者が使い慣れた馴染みの大切なタンスの上に家族写真が置かれ、元気な頃に作った季節の折り紙作品を額に入れて壁に飾ってある。家族の協力で、それぞれ居心地良く過ごせる工夫をしている。清掃や整理整頓は利用者と担当職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのマークや、個室の表札など、わかりやすくすることで、行きたいところへ自分で行ける環境づくりを工夫している。		